

令和6年 稲作情報 vol.2

※この資料は、令和6年3月25日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

※この資料は、県ホームページでも公開しております。

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36250a/inasakugijyutujyohou.html>



南会津農林事務所農業振興普及部 Tel 0241-62-5262

南郷普及所 Tel 0241-72-2243

J A会津よつば田島営農経済センター Tel 0241-63-1172

南郷営農経済センター Tel 0241-72-2554

下郷資材センター Tel 0241-69-1088

只見資材センター Tel 0241-84-2214

◎ 育苗中の適切な温度管理及び病害対策（苗立枯病・もみ枯細菌病）により健苗を育てましょう。

<作業スケジュール（参考）>

	4月			5月		
	上	中	下	上	中	下
苗床	苗床準備					
浸種	浸種			今回の内容		
催芽		催芽				
播種			播種	育苗管理		
育苗	Vol.1を参照					
本田準備						
田植え				次号		
				田植え		

※ 作柄判定ほ（田島・ひとめぼれ中苗）の播種期平年値（4/20）及び田植期平年値（5/24）から例示。

1 気象情報（気象庁1か月予報（3/21発表）から抜粋要約）

向こう1か月（3/23～4/22）の東北地方の気温は平年より高く、日照時間・降水量はほぼ平年並の見込みです。4月上旬までは気温がかなり高くなる可能性があります。また、天気は数日の周期で変わると予測されているため、随時予報を確認しましょう。

2 育苗期間の温度管理

(1) 出芽

- ・ 育苗器の温度は28℃としましょう。(2～3昼夜)
- ・ 出芽率は80～90%、芽の長さは5～10mmが目安です。

(2) 緑化

- ・ 育苗用被覆資材を平張りし、苗が緑化して、草丈が1.5～2cmになったらはずしましょう。
- ・ 緑化温度は日中25℃、夜間12～15℃を目安に、2～3日程度管理しましょう。
- ・ ハウス内温度は28℃を超えないように注意し、強光にはあてず、過湿にならないようにしましょう。

(3) 硬化 (緑化後から移植まで)

- ・ 硬化期は換気をこまめに行い、ハウス内の温度は日中20℃、夜間10～15℃を目安に管理しましょう。
- ・ かん水は1日1回、朝方に十分行いましょう。

～プール育苗について～

病害の発生が少ないことやかん水労働の軽減がメリットですが、以下の点に注意してください。

- ・ **置床の均平確保**
- ・ **緑化終了後の温度管理**
水の保温効果により苗が伸びやすいことを踏まえ、ハウス内の気温を10～20℃くらいに保ちましょう。
- ・ **入水 (1回目)**
入水1回目は、緑化が終了し、種子根が育苗箱底に届き、本葉第2葉が出始める時期に行いましょう。1回目の入水深は培土表面より低くし、培土や苗が水で覆われないようにします。
- ・ **入水 (2回目以降)**
2回目以降の入水は、プールに水の無くなる部分が出始めた都度行い、水深は培土と同じ程度までとしましょう。葉齢2葉期以降になったら草丈の半分程度の深さとします。
- ・ **霜・低温対策**
霜や低温注意報が出ている場合、サイドビニールを閉め、プールの高さまで湛水して(翌日に水の量を調節)、保温に努めましょう。

3 育苗期間の病害対策

病害対策は、塩水選や播種時の殺菌剤処理による予防を基本とします。

また、育苗期の適切な温度やかん水管理は、病害の発生を抑制するので、徹底しましょう。

(1) カビによる苗立枯病

・ 原因菌ごとの病徴と発生要因

原因菌	病徴	発生要因
トリコデルマ	床土の表面や種籾の周囲に白いカビが生じ、しばらくするとカビは青緑色になります。激しく発病すると出芽前に種籾があめ色に腐敗し、出芽しても先端がよじれ、褐変枯死します。	床土の pH が低いほど発生が多くなります。また、播種時のかん水が不十分で床土が乾燥状態の時や保水力の小さな土壌を床土にした場合も発生しやすいです。
ピシウム	出芽間もない幼芽が侵され根が水浸状に褐変腐敗して苗が枯死する「腐敗枯死症状」と、育苗後期の第2～3本葉期頃にこより状になり萎凋枯死する「萎凋枯死症状（ムレ苗）」に分けられます。苗の地際部や周囲の土壌表面にはカビが生じません。	緑化期以降の低温との遭遇は発病を助長します。
フザリウム	発芽直後から発生し、根や苗の地際部が褐変腐敗します。苗の生育が悪く、地上部は萎凋し、のちに黄化して枯死します。苗の基部や籾の周囲に白色やピンク色のカビが生じます。	緑化および硬化期間中の極端な温度変化、特に10℃以下の低温との遭遇は発病を助長します。また、床土の乾燥と過湿の繰り返しや肥料不足でも発生が助長されます。
リゾープス	出芽時に籾の周囲や床土表面に白い綿毛状のカビが生じ、急速に繁殖して、育苗箱全面を覆うこともあります。苗の生育は劣り、黄緑色に退化して不揃いになり、ひどい場合は枯死します。	出芽期間中の30℃を越すような高温や緑化以降10日頃までの10℃以下の低温は発生を著しく助長します。

・ 有効な農薬

下表は苗立枯病に有効な農薬の一例です。最寄りのJA支店や各販売店の情報を参考に、使用薬剤を選択してください。

農薬名	使用時期	適用病害虫	使用方法	本剤の使用回数
ナエファインフロアブル	播種時	ピシウム菌	育苗箱1箱当たり1000倍液500mlを土壌かん注する。	2回以内
		フザリウム菌		
		リゾープス菌		
ダコレート水和剤	播種時～緑化期(ただし、播種14日後まで)	トリコデルマ菌	育苗箱1箱当たり400～600倍液500mlを土壌かん注する。	2回以内
		フザリウム菌		
		リゾープス菌		

※ 育苗箱は1箱30×60×3cm、使用土壌50を基準。

農薬は容器等に記載されている使用基準・使用方法等に従い正しく使いましょう

(2) もみ枯細菌病

育苗後期に、葉鞘が褐変腐敗し、新葉は葉身基部が退色し白色になり、腐敗して抜けやすくなります。罹病籾が第1次伝染源となることから、塩水選を徹底しましょう。

また、播種後10日頃までの30℃以上の高温多湿条件により2次感染が起こる可能性があるため、育苗中のハウス内等の温度が30℃以上にならないようにしましょう。発病が見られた苗箱は廃棄しましょう。

4 耕起・代かき

・ 均平はとれていますか？

耕起や代かきを丁寧に行い、ほ場の凹凸を無くしましょう。ムラのない生育や、除草剤の効果を十分に発揮させるうえで重要です。

・ 漏水はありませんか？

モグラやネズミの穴がないか一度見回りを実施します。

◎ 春の農作業安全運動実施中（期間 4／1～5／31）

春はトラクターを利用する機会が多くなり、農作業事故が発生しやすくなります。転落・転倒に注意して作業を進めましょう。

次回発行は5月(田植え～本田初期管理について)を予定